

第20回知床五湖の利用のあり方協議会

<議事録>

1.場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

2.日時：平成23年6月29日（水）17：30～19：50

3.出席者：別紙の通り

4.議事：

- (1) 知床五湖園地整備事業について
- (2) 知床五湖フィールドハウスでの当日受付対応について
- (3) 平成24年度開園から5月9日の運用について
- (4) その他

5.配付資料：

- 資料1-1 知床五湖園地施設一覧表
- 資料1-2 知床五湖園地動線・ゾーニング図
- 資料2 知床五湖フィールドハウス内のカウンターの設定と概要
- 資料3 平成24年度開園から5月9日までの取扱いについて
- 資料4 植生保護期立入り認定申請書書式
- 参考資料1 知床五湖利用調整地区ヒグマ活動期立入り実績・予約状況
- 参考資料2 ヒグマ活動期の設定について

議題 6. 議事概要：

環境省：挨拶

1. 知床五湖園地整備事業について

環境省：資料 1-1 の説明

ガイド協議会：駐車場で車を降りてから建物に入るまでの流れはどのように想定しているのか。また、トイレの場所がわかりにくい。一度フィールドハウスに入って場所を聞いてからトイレに向かうという流れになっている。看板のようなものを立てる必要があるのではないか。

環境省：トイレの場所がわかりにくいということは聞いている。看板等を設置することで、誘導を行う予定。

ウトロ協議会：確認なのですが、駐車場については変更していないということですか。

環境省：大型車のスペースについて、変更をおこなっている。

環境省：高架木道の入り口付近が大型バスの駐車位置であるため、駐車場の埋め立てを行い、大型バスの駐車位置を移動した。このことにより、高架木道の入り口が分かりやすくなると考えられる。

ウトロ地域協議会：今までの大型バスの停車場所は使用しないということか。

環境省：現在の大型バス駐車位置は、スペースがあれば、普通車用の駐車場とする。また、身障者用の車置き場の設置も必要。配置はこれから考えていく。

ウトロ地域協議会：現在の身障者用の駐車場所についてはどうなるのか。

環境省：現状の身障者用の駐車場所を移すことになる。図面の中の青の線が現状の駐車場のとなっている。大型バスの駐車位置を移動することによって変更される配置についてはこれから考えていく予定。

ウトロ地域協議会：タクシーの駐車場は無くなるのか。

環境省：現在の場所からはなくなる。駐車台数に関しては、変えないように設計してある。

温泉旅館組合：全体の駐車台数を減らさないようにしてほしい。現状でも、駐車できる台数は少ない。

ウトロ地域協議会：昨年とは、五湖の運用が変わってきている。ガイド予約をした利用者がいる時に、駐車場が満車であった際は、ガイドツアーに参加することができなくなる。また、定員が一杯でないのに、駐車場が一杯でツアーに参加できなくなるということもあり得る。全体の駐車場の台数をどのようにするのかを検討する必要もあるのでは。このままではトラブルが起きるのではないか。

ガイド協議会：実際、昨年にガイドの車が入れず、30 分間車の中で説明を行っていたこともあった。混雑時に、優先させてもらえるような仕組みがあるとありがたい。

環境省：駐車スペースがなかったため起きたことか。

ガイド協議会：一般の車と同じように並んだ。今年は一般の車とガイド車を分けるようにしてもらいたい。

ガイド協議会：仕組みがないと、ガイドの車であるという理由で優先して入れるようにするのは難しいと思う。一般の利用者との絡みもあるため。

ウトロ地域協議会：ツアーの予約は時間設定がしてあるのに、渋滞によって出発が遅れるようなことになったらトラブルにつながるのではないか。

ガイド協議会：別の場所にガイド車用の駐車場所を確保できれば、ガイド車を優先できるようなルールがあればよいが、現状の駐車場内の中でスペースを確保するのは、一般の利用者からのクレームになる可能性もある。また、逆の可能性として、ツアー参加者がバスで時間通りに集合しているのに、ガイドが間に合わず、ツアーが成立しない可能性も出てくる。ただ、この場合においても、ガイド用の車だということで優先して通してもらうことはできないと考えている。

ウトロ地域協議会：管理車両用駐車場には、どのような車が駐車するのか。そこにガイドの車が駐車することはできないのか。

知床財団：7月末までのヒグマ活動期については、海の日を除いて問題ないと考えている。

お盆時期がある植生保護期とは、システムが異なり、問題の把握はしているが、活動期については問題ないと考えている。

知床財団：運転手とガイドは別にしてほしい。駐車場管理者（自然公園財団）と話したところ、ガイド車は、渋滞の途中で停車して、ガイドと利用者のみ歩いて、五湖園地内に入ってきてほしい。

ガイド協議会：これから登録引率者の数も増えるはず。今だけの対応としないで、これから先のこととして慎重に考えてほしい。

ウトロ地域協議会：実際に問題に直面するガイドの方から言ってもらえたらと思う。

しれとこフォーラム 21：当日受け付けができる場所に昔のトイレが使用できるのでは、退避場所についてガイドのスペースがいるのではないか。ガイド用に確保するのは難しい。資料 1-1 の中でシステムも委託。駐車場のスペースに対して、考えた方がよい。ツアー参加者の車が 2 時間以上も車を停めていたらすぐに駐車スペースが一杯になってしまう。

知床斜里町観光協会：疑問なのだが、本当に駐車できる台数は変わらないのか。

環境省：現在大型車が停車するスペース、真ん中の空いているスペース、現在の身障者用に広く確保してあるスペースを普通車用として再整備をする。駐車できる台数は確保できる。

知床ガイド協議会：植生調査まで行って、一台分しか増えないのはもったいないのではないか。もう少し柔軟に組み替えていただけたらと思う。できるだけ駐車台数を増やしてほしいというのが、こちらの希望である。また、現在、フィールドハウス前の砂利敷きの場所は軽自動車なら駐車が十分にできるのではないか。

斜里町：高架木道の入り口を改修して効果的に誘導する必要がある。駐車台数の増加ができなくても、このことが、やらなければならないことである。

知床ガイド協議会：大型バスの位置をもっと別の場所に動かすなど、もう少しレイアウトを考える余地があるのではないか。

斜里町：現段階では、外構の整備というところで話を進めている。段差の解消等で台数を増やしていくように進めている。駐車場を拡張するというような対応ではなく、ソフト面で対応していくようにしたい。知床五湖の駐車場の使い勝手の部分の改善に力を入れたい。拡張というより、改修として進めていきたい。

知床財団：今までと人の流れが変わるので、現在トイレのある場所である管理ヤード方面に、路線バスの停車場所も変更することもできるかもしれないと思う。人の流れを誘導できるように変更できるのではないか。

知床ガイド協議会：今の玉砂利敷きの部分は人が利用していない所がある。このスペースはもっていないのではないか。

知床財団：人の流れが変わるということを念頭にして、いろいろ工夫をしなければならないと思う。

ウトロ地域協議会：この図にあるように改修、ということで結局のところこの問題が決着してしまうように感じる。駐車場の問題はもっとしっかりと考えなければならない。ゆっくり時間をかけて、高架木道・地上遊歩道を見てもらいたい。そのためには、スペースには余裕が必要。また、一つのラインをつくるように、入りやすく、利用しやすいようにしなければならない。一回のみくる観光客も多い。そのために分かりやすくしなければならない。継続の審議を希望する。

温泉旅館組合：駐車場について、拡張しなければ駐車台数は増えない。少しでも駐車できる台数をふやさないといけない。滞在時間は延びているのだから、利便性と併せてこれからの議題の一つにしてもらえたらと思う。

ガイド協議会：外から見て、フィールドハウスだと分かる看板がない。どちらの建物がフィールドハウスかわからない。また、総合案内看板の位置が良くない。危ない位置にあるように思われる。パークサービスセンターから駐車場を見たときに邪魔をしてしまう。

環境省：広場の位置が下に下がったことで、人の流れも下に下がった。この場所だと、バスの停留所の裏となってしまうので、邪魔になってしまう。芝生の前を広くすれば、総合案内板も邪魔にならず、大きな看板にまず寄ってもらうように作り変えたいと思っている。

ガイド協議会：駐車場の利用は利用者の声を聞いている限りでは、カムイワッカと知床五湖（高架木道）をセットとしての利用者が増えているようだ。カムイワッカがシャトルバスのみとなった場合に、高架木道の利用数が下がったりもするのではないかと思う。駐車場を広くした上で色んな議論ができればいい。

環境省：今回頂いた意見は基本設計の時に取り入れていきたい。今回は、木道のエントランス部分

について、使いやすくすることで、大型バスの駐車位置の移動のこの2点のについて進めるようにしたい。駐車場そのものをどうするか、ということについては、継続審議としたい。今、中途半端に整備を進めてしまうと、その後の再整備がしにくくなることもある。現段階では、最低限の箇所について進めていくようにしたい。植生調査の結果を踏まえて話しを進めていきたい。本日いただいた意見を参考に計画を進めていく。基本設計を練り直した段階で、7月中にまた皆様のご意見をうかがうようにしたい。

ウトロ地域協議会：了解

知床斜里町観光協会：台数は確保できるのか。

環境省：台数は変えずに外構整備をする。

ウトロ地域協議会：この件に関しては、継続審議としていただきたい。

知床温泉組合：電気柵についてなのだが、駐車場の出口に続いているものはどのあたりまで延長されるのか。

知床財団：図面で示しているものと同じ。チケットハウスの裏まで。また、この電柵は昨年張っていたものと同じもの。今年、駐車場付近で出沒することがあった。今年は電柵を常設するようにした。

環境省：柵自体は仮設で設置するものだが、支柱は、常設のもの。

知床財団：この電気柵は、いわゆる完全に個体をいれないようにする「シカ柵」ではなく、電気が流れる線が張り巡らされているようなもの。

知床斜里町観光協会：木製目隠し壁とはなにか。

環境省：管理者用の車両を見えないように分けているもの。管理車両と一般車両をちゃんと仕切るべきであるという考えから設置を考えている。

環境省：管理車両用の駐車場を仕切るものと、バックヤードを見えないようにするためのものとして、目隠しは2箇所となっている。

公園財団：管理車両はどこから入るのか。

環境省：赤い点線で示したものが管理車の動きとなっている。

知床斜里町観光協会：昨年までのトイレについてはどうするのか。

北海道：撤去します。

ウトロ地域協議会：地上遊歩道の出口の方から管理ヤードに向かうと人と接触してしまうのではないかと。町道側から直接入るようにすれば人との接触は少ないのではないかと。

ガイド協議会：道路からまっすぐの所は、目隠しは必要ないのではないかと。

環境省：バイク置き場となっているので、現時点では無理。

環境省：バイク置き場とのところから入るとすると、今の管理車両用の高さを高くする必要がある。そうすると今継続審議となっている「段差」とも絡んでくることになる。今の段階では、この予定

である。

ウトロ地域協議会：縦ラインにおいて、人との交差を避けるようにすべき。できるだけ段差のすぐ左から入れるようにするのはどうでしょうか。

環境省：基本設計に反映できればと思う。

ガイド協議会：バイク置き場の移動するのは可能か。

環境省：可能。選択肢はいくつかあると思う。

ウトロ地域協議会：バイクに関しては、ちゃんとしたスペースを確保してほしいという意見はある。

公園財団：今は3台も止めればいっぱいになってしまう。しかも、少し傾斜していて非常に止めにくい。

環境省：チケットハウスから入ったところの、三角形の芝生の場所を使えないかと検討している。

公園財団：縁石があるので、今のままでは使えない。整備が必要。

ウトロ地域協議会：バイクの駐車場に関しても色々な意見がある。検討してほしい。

環境省：7月中に基本設計を固めたい。固まる前にもう一度意見を伺いたいと考えている。

環境省：エコツアー協議会においても情報提供をおこなっていききたい。早めに意見をまとめ、7月中には基本設計を決定したいと考えている。

資料2の説明：知床ガイド協議会

環境省：補足説明

知床ガイド協議会：補足説明

温泉旅行組合：料金徴収の5000円は、ガイド料ということか。

ガイド協議会：指定認定機関に払う5000円、ガイドの払うガイド料を含めたもの。当日料金については一律にする。登録引率者に対しては6月に説明をしている。

温泉旅館組合：電話はどこにかけたらよいのか。

ガイド協議会：フィールドハウスの電話にかけてもらう。来年以降はわからない。できれば、専用の番号を取得したいと考えている。今からでは周知させるのは難しい。今年に限ってはフィールドハウスの番号を使用する予定。

知床斜里町観光協会：現時点で問い合わせがきている。フィールドハウスではさばけないだろうと思い、ガイド業者に直接繋ぐようにしている。

ガイド協議会：専用の携帯電話でも設置する等、考えなければならない。

知床財団：現在は、子機を使用している。沢山かかってくることで、電話が取れなくなることは避けたい。

ガイド協議会：経費の面で考えると、これから継続してカウンターを設置していくとなれば、電話を引いた方が安くなるのではないかと考えている。

知床斜里町観光協会：利用者に対して、ここに電話すればいい、と言える一つの番号があるといい。

しれとこフォーラム 21：当日受け付けのカウンターの設置は7月いっぱいまでなのか。緊急対応について対応できるような人は設置しておいた方がよいのではないかと。7月だけでよいのか、8月以降もないとおかしいのでは。

ガイド協議会：8月以降の植生保護期は自己責任となっている。登録引率者として料金と徴収している以上は、対応しなければならないが、個人で入るという場合は別である。

知床財団：これは事業者がツアーを催行しているので、何かあった場合、まずはその事業者が対応するという意味である。8月以降は、高架木道の一般利用と同じで考え、対応することになる。植生保護期でも何かあった場合に、何もしないということではない。

エコツアー推進協議会：基本的なことは賛成しているが、私はカウンターの設置することは反対している。このような事態になることは予想できたはずで、そう発言もしてきた。今になってこの問題に関して対応をしてもらおうという姿勢には賛成できない。

知床斜里町観光協会：どういう経緯で、その当日カウンターを設置するようになったかが分からない。

ガイド協議会：環境省や指定認定機関に何かを言われた訳ではない。ガイド協議会で何か手を打つ必要があると感じたので動くようにした。地元の方が当日予約に関して心配をされている。その声を聞いて、ガイド協議会の方で動く必要があると感じた。そのままにしておくことはできない。何も動かないということでは何もよくなっていかない。この当日カウンターがあることで、利用者が助かったと思ってくれればと思う。

温泉旅館組合：当日受け付けに関して、問題があるという新聞の報道があったが、実状はどうか。

知床財団：説明を丁寧にすれば納得してくれる。説明する人がいれば上手くまわっていくが、初めて来た人に対して、説明が足りないと、納得してもらえない。トラブルが多くて大変困っているという状況ではない。

温泉旅館組合：環境省の方に苦情はあったか。

環境省：当日対応が悪い、という苦情はきていない。遺産センターや観光協会を通して、お客様からの当日受付に対する要望はきているが、同時にフィールドハウスの対応に対する評価ももらっている。

温泉旅館組合：当日対応は重要。この制度を知らない人は多い。その人に対して、説明をして、制度を受け入れてもらうのは大切である。

ガイド協議会：きっとどれだけ周知をしても、知らないで来る人は毎年いる。ずっと丁寧に説明をする必要がある。引率者も年々増えていくはずである。紹介したくてもできない、という予想もで

ている。枠が埋まってしまうと紹介したくてもできない、事業者が増えれば増えるほどその確率が増えてくる、そういうことも含めて、皆さんの認識をいただきたい。そういったことを考えて、来年につなげてほしい。設置したカウンターで紹介した会社・人数などは、全て公開する。

環境省：資料1で昨日までのデータを示している。当日カウンター設置については、承認という形でよいか。

一同：承認。

(4) 議題3. 平成24年度開園から5月9日の運用について

環境省：資料3の説明

しれとこフォーラム21：今年の開園から5月9日までの期間で、ヒグマの出没で閉鎖になったことはあるか。

環境省：5月7日に一度だけ閉鎖をしている。フィールドハウスのすぐ裏、3-5湖へのルートの閉鎖看板のところに出没した。

しれとこフォーラム21：その閉鎖はまる一日か。

知床財団：確か半日の閉鎖であったと記憶している。

斜里町：今年の開園から5月9日までは、3-5湖のルートは閉鎖をしたまま。そこにヒグマが出没した。

環境省：今年は、登録引率者の研修などで、その時期に3-5湖ルートに何度か入ったが、雪上には足跡があった。4月後半には接続路部分にシカの死体があり、回収している。痕跡は多数ある。

しれとこフォーラム21：ヒグマがどれくらいでるかで、ゴールデンウィークはヒグマ活動期からはずしてもいいという話になっていたはず。今年度、一度のみの閉鎖であれば、来年は利用しやすいようガイドなしでも入れるように開放の方向で進めてもらいたい。資料3裏の、③・④案は除雪の必要もあって現実的でないのは理解できる。①・②案で地上歩道を歩く場合、事前のレクチャーは必要なのか。それとも自由とするのか。地上歩道を歩く時に手数料を必要とするのか。

環境省：植生保護期とするならば、レクチャーが必要となる。今年は自由に散策となっていたが、フィールドハウスでレクチャーを流し続けていた。見てもらうよう促してはいたが、見る利用者・見ない利用者がいた。

ガイド協議会：5月9日まで、今年は何人ぐらい入っていたのか。カウンターのデータがあると思うが。

環境省：カウンターのデータはとっているが、まだ最終的な数字が出ていない。現段階では、カウンターの記録数だけで、これから整理となる。整理ができれば利用者数を示したい。

ガイド協議会：人数で、植生保護期と自由利用期を分けたと思う。今年の利用者数を見て、来年の5月9日までを決められるのではないか。

環境省：平成22年のゴールデンウィークのデータでは、一日最高1400人入っていた。

温泉旅館共同組合：1湖畔のルートが無くなるから、どうしようかということだと思う。自由利用は無理であるという前提であるのか。

環境省：事務局としては、ヒグマ活動期を前倒ししたいと考えているが、意見を聞きながら決めたい。過去の話からすると、ヒグマがよくでる時期であるので、ヒグマ活動期としよう、となっていた。しかし、初年度でもあり、厳しい規制から始まるのは良くないとのことで、今年のゴールデンウィークはヒグマ活動期からはずした。

温泉旅館共同組合：まだ一回しかやっていないので、ヒグマ活動期を前提として進めるということではないだろう。②案の自由利用期のようなものでいければいいと思う。

しれとこフォーラム21：ヒグマがどれくらいでて、閉鎖の日がどれくらいあるかというデータから、ゴールデンウィークの利用が決まったと思う。そのデータで判断をすればいいだろう。ヒグマ活動期の単なる前倒しにはならないだろう。

斜里バス：植生保護期の後の自由利用期のルートについてはどうなっているのか。それについての議論は？

環境省：それについては、植生保護期と同じルートということになっている。事務局としては、ヒグマのリスクがあるので、レクチャーも何もなしで利用させることにはならないと思う。初年度の状況を見て来年度も考えようとなっている。カウンターの利用者データはこれからだが、ヒグマの出没はあったし痕跡もあった。

知床財団：ヒグマはいる。ただそれをどう評価するかが重要。期間が細かく分かれすぎると、混乱を招く恐れがある。期間があまり細かく分かれられないような整理が必要だと思う。

ガイド協議会：ヒグマ活動期となれば、登録引率者が必要になる。そうすると、当日受付がまた必要となるだろう。経費のことも考えて、やっていけるか。ゴールデンウィークの集中する3、4日間のために、ガイド協議会が当日カウンターをだすかという話になれば、だすとは言い切れない。分け方の楽さ加減で、この時期をどのような利用にするかを決めるのはどうかと思う。ゴールデンウィークは道内の利用者が多く、今までは回れていた。利用者数は増えるわけではないと思う。そのまま自由に利用できるようにしてもいいのではないかと思う。

知床財団：ヒグマの活動はあるが、積雪の状況も年によっても違うし、そういったことも考えていく必要がある。

温泉旅館共同組合：ヒグマの活動はあると思うが、この期間分けをしたのは、ヒグマを中心にして分けていたはず。それを踏襲していけば、来年のゴールデンウィークは開放してもいいだろう。

知床財団：1湖畔の歩道は使用できない。それをふまえてルートを考える必要がある。

環境省：接続路の部分は、残雪もあり足場はかなり悪い。

知床財団：雪があると、電柵がうまく機能しないことがある。それも考慮に入れて接続部について

は考えていかねばならない。

環境省：議論を重ねて、10月ぐらいまでには決めていきたいと思っている。

環境省：利用者数、ヒグマの出没に関しては、今後具体的なデータを示していきたい。

(5) 議題4. その他

知床財団：資料4について説明

ガイド協議会：フィールドハウス内にある記帳台の数は変わるか。

知床財団：数は変わらない。配置は変えようと考えている。

ガイド協議会：少なすぎる。記帳台に並んでしまうような形になってしまうだろう。

温泉旅館共同組合：申請書にある「自然公園法第24条2項」の内容がどこにも載っていないが、記載がなければどのようなものなのかが分からないのではないかと。

環境省：この書式は変えられないが、「2項」については小さくなるかもしれないが、記載したい。

申請書の裏面、「遵守事項」はもう少しわかりやすくしたいと思っている。

ガイド協議会：「2項」を別の紙に書いて配布するという形でもいいと思う。

ガイド協議会：記入をするのは、太枠の中だけでいいのか。

知床財団：利用者には、太枠の中のみ記入してもらう。

ウトロ地域協議会：この申請書をだした後は、どうなるのか。

知床財団：申請書をコピーして、認定書の裏面に付ける。

しれとこフォーラム21：書いた原本はどうなるのか。

知床財団：原本は財団の方で受け取る。

ウトロ地域協議会：原本を渡すとなると、裏に書いてある遵守事項は手元に残らないということか。

知床財団：遵守事項は、手渡す認定書にも記載されている。

しれとこフォーラム21：太枠の中が分かりにくい。もっとまとめてほしい。申請書の切り取りの必要がないものはないのか。提出するだけの申請書があった方がいいと思う。事前レクチャーで遵守事項を伝えるのであるから、裏面の遵守事項はもっと分かりやすく、大切なことだけを記載してはどうか。

環境省：レクチャーを受ける時には、立入認定がすでに終わっている。認定をする前に、こういうことを守る必要がある、ということを知ってもらわなければいけない。

知床財団：手続きの説明をするのに便利かと考えて、申請書だけではなく流れも記載した。必要ないということであれば、申請書だけのものも作れる。

しれとこフォーラム21：配布場所によっても違うと思うが、切り取りの必要がない申請書だけのものもあるといい。

ウトロ地域協議会：裏面にあるルート案内が見にくいように思う。

知床財団：これは、まだ案の段階。このような形にしてはどうか、というものである。これを入れてほしい、という要望・意見があればいただきたい。分かりやすさ、見やすさについては、今後改良をしていく。

ガイド協議会：10分で50人のコピーは大丈夫か。

知床財団：コピー機を2台にするなど、検討中である。

しれとこフォーラム21：複写式の方が良いのではないか。

知床財団：それも考えたが、グループで入る場合には、人数分のコピーが必要となる。一人一人が認定書を持っていなくてはならない。それを考慮にいと複写は難しい。申請書の書式は簡単にはしてあるが、法的な書類でもあるので、記載すべき項目・外せない項目はある。

しれとこフォーラム21：代表以外には、簡単な認定書にするなど別な方法はないのか。

知床財団：2年目に向けて工夫は必要だと思っている。

観光協会：切り取りを前提としているのか。

知床財団：切り取りをしてもらおうと、コピーが少し早くなる。ミシン目は入れ、切り取りやすくする。事前に予約をすると、本部の方で氏名・住所が印刷されたものを出すので、後はサインをしてもらうだけとなる。予約をするメリットはある。いろいろな状況を考えてシミュレーションを行っている。その都度改良をしていきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

ガイド協議会：何人体制となるのか。

知床財団：日中は5人で業務を行う。それ以外にも、ボランティアの方にも手伝ってもらおうと考えているし、インターンの学生もフィールドハウスに入れる予定でいる。

しれとこフォーラム21：携帯電話からも予約はできるのか。

環境省：携帯電話からも予約は可能。使いやすさについては、改良が必要な点もある。

ウトロ地域協議会：予約システムについてだが、引率が増えると空枠がないということになるだろう。仮予約といったことについての課題は、今年はなかったのか。

環境省：ヒグマ活動期、植生保護期で予約の考え方が違う。ヒグマ活動期については、エージェントから直接の予約はできない形となっており、仮押さえはできない。植生保護期に関しては、仮予約が可能である。知床財団の方でその調整事業を行ってもらっている。

ガイド協議会：ヒグマ活動期、混み合っている時間に枠が取れないことがある。船の時間などがあると、別枠へまわしにくいという現状がある。もっと、時間枠があればいい。ニーズはあると感じている。

知床財団：観光船などとスケジュールをタイアップすることなどは可能か。

ガイド協議会：1日ツアーとして、そういった調整はしている。岬航路の船に乗りたいと希望している人は難しい。五湖と船をどちらかを選ばなくてはいけないという状況もある。昼の時間枠を希望する人は、クルーザーを朝に乗って、昼に午後、その後移動を考えている。朝と夕方は希望者が

多い。利用枠をもっと広げてもらえればと思う。

ウトロ地域協議会：ヒグマ活動期の利用枠は10名だが、12名のグループの場合はどうするのか。

ガイド協議会：単純に別のグループをして入ることになる。ガイドが増えてくれば、とりたくてもとれないという状況になる。今のままの枠数では足りない。

ガイド協議会：枠が足りないという問題はあるが、今はそれぞれの会社で対応している。これからの方がもっと大きな問題となるだろう。

ガイド協議会：個人の利用者よりも、旅行会社経由のものが問題となると思う。

環境省：長期的な視野をもって考えていきたい。

7：50 協議会終了